

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	福祉こども課	
2. 事業名	地域福祉シンポジウム	
3. 計画の該当施策	基本計画	2. 地域支え合いの充実
	施策	(2)地域福祉の担い手が活躍できるしくみづくり
	施策の方向	①地域福祉活動の情報発信の強化
4. 事業目的	町民の地域福祉への関心を深めるとともに、第4次高島町福祉計画・高島町地域福祉活動計画を広く周知することを目的とし、地域福祉を推進していくためには、身近にある福祉課題や情報を知り、自分自身が気づき行動を興すことが重要であり、シンポジウムを通して身近な福祉を知る機会とする。	
5. 事業内容・実績	<p>シンポジウムのテーマを「生涯を通じた福祉教育にどのように取り組むか」とし、学校教育、社会教育、まちづくり、要援護児童への支援の分野から福祉活動の活動事例を紹介していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時 令和2年2月2日(日) 午後1時30分～3時45分 ・場所 屋代地区公民館 多目的ホール ・内容 <p>①基調講演「高島流福祉のまちづくり」講師:立教大学コミュニティ福祉学部教授 西田 恵子 氏 ②パネルディスカッション 「支え合い共に生きる幸せな地域づくりを目指して～知っていますか気づいていますか身近な福祉～」 パネリスト 糠野目小学校 高橋 聡校長 二井宿地区公民館 神保 一雄館長 おれまか 大塚 栄一元代表 福祉こども課こども福祉係 安部 尚子係長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数 70名 ・その他 地域福祉計画概要版の配布、簡易版ニーズ調査の実施 	
6. 写真		
7. 効果	<p>【参加者アンケート調査の結果より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組みを聞いて勉強になった。たくさんの方がやらされているではなく能動的に取り組んでいることを知れて刺激を受けた。 ・町内でいろいろな活動があることを知り興味深い内容でした。 ・このような機会があり有意義だった。 <p>参加者が70名と少ない人数ではあったが、参加者からは好評価を得られた。</p>	
8. 課題	<p>参加者を増やすために、日曜日の午後の時間を設定し開催したが、例年平日の日中開催している立教大学交流連続講座の参加者と比較してもさほど多くはならなかった。参加者の年齢層についても、60代が45%、70代が24%となっておりシニアの方の参加者が多く、若い世代の参加者を増やすことが課題。</p>	
9. 今後の取組の方向	<p>地域福祉を推進し周知するための取組としては効果がある。今後も引き続き、具体的な取組を周知する場として、シンポジウムを開催する。</p>	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課名	福祉こども課	
2. 事業名	広報たかはた・高島町ホームページ掲載	
3. 計画の該当施策	基本計画	2. 地域支え合いの充実
	施策	(2) 地域福祉の担い手が活躍できるしくみづくり
	施策の方向	①地域福祉活動の情報発信の強化
4. 事業目的	町民の地域福祉への関心を深めるとともに、第4次高島町福祉計画・高島町地域福祉活動計画を広く周知することを目的とし、身近にある福祉課題や情報を発信する	
5. 事業内容・実績	<p>広報たかはた及び高島町ホームページに「地域福祉通信」として福祉の情報を掲載</p> <p>※紙面の都合上、偶数月に掲載</p> <p>・12月 第4次地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定しました！</p> <p>・2月 第1回 地域福祉通信「福祉教育」糠野目小学校 高橋 聡校長に原稿依頼</p>	
6. 写真	<p>◆はじめに◆</p> <p>◆この計画の位置づけ◆</p> <p>◆基本目標◆</p> <p>◆基本目標1◆</p> <p>◆基本目標2◆</p> <p>◆基本目標3◆</p> <p>◆地域福祉って何？◆</p> <p>◆地域福祉計画通信◆</p> <p>◆地域福祉とは？◆</p>	
7. 効果	様々な情報を流すことで、「地域福祉」を知るきっかけづくりになっている	
8. 課題	若い世代への周知のあり方が課題	
9. 今後の取組の方向	引き続き2ヶ月に一度のペースで広報たかはたとHPへの掲載を行う。町民の目に留まりやすいタイムリーな内容を掲載する。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	福祉こども課	
2. 事業名	民生委員・児童委員活動支援	
3. 計画の該当施策	基本計画	2. 地域支え合いの充実
	施策	(1)地域福祉の担い手の育成・強化
	施策の方向	①民生委員・児童委員や高齢者、障がい者相談員など相談支援活動の周知と普及
4. 事業目的	<p>多種多様な問題が混在する現在する現代社会において、当町でも地域住民を取り巻く環境は複雑は複雑多様化していることから、民生委員・児童委員に対する期待は大きくなっている。このような中で、民生委員児童委員活動を展開するためには「悩んでいる人に気付き、話を聞き支援につなげること」、「委員一人で問題を抱え込まず、連携を図ること」は特に重要である。講演を通して、課題を抱える人との接し方を学び、事例学習を通して委員相互で支え合う意識を醸成することを目的として開催した。</p>	
5. 事業内容・実績	<p>高島町民生委員児童委員協議会宿泊研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科認定看護師による研修の後、事例をグループワークで検討し支援方法について検討した。 ・日時 令和2年2月25日(火) 午後1時30分～5時05分 ・場所 南陽市赤湯「むつみ荘」会議室 ・内容 <p>1. 研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「みんなが心のサポーター(ゲートキーパー)」 講師:米沢こころの病院 精神科認定看護師 土谷智彦氏 ②事例学習(グループワーク) <p>2. 講話「高島町を取り巻く状況とこれからの課題」 高島町長 寒河江 信氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加人数 67名 	
6. 写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
7. 効果	<ul style="list-style-type: none"> ・事例学習をしたことで、実践的な学びができた。 ・委員同士の交流を図ることで、ネットワークが構築できた。 ・中堅民生委員から新任民生委員へ良い情報伝達の場となった。 	
8. 課題	<p>民生委員が地域での見守り活動の中で実際に学びたいと思うことを抽出しきれていない。</p>	
9. 今後の取組の方向	<p>民生委員活動を重ねていく中で、民生委員自身が学びたいと思うことについて把握し研修を実施することにより、地域での民生委員の見守り機能を高める。</p>	


令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	福祉こども課	
2. 事業 名	地域福祉活動推進事業補助	
3. 計画の該当施策	基本計画	4. 未来を築く子どもが健やかに育つための環境づくり
	施策	(1)地域ぐるみの子育ての推進
	施策の方向	②子ども・子育てを支える活動の拡大
4. 事業目的	困難な課題を有する子供たちを重点対象とし、子ども同士や地域の大人たちとのつながりをつくり、自己形成に必要な挑戦や試行錯誤の経験を積むことのできる環境づくりを行うことで、子どもの生きる力の醸成と、将来の展望に幅広い選択肢を持ってもらうことを目的とした事業への補助	
5. 事業内容・実績	<p>◎子どもの未来応援事業実行委員会への補助を実施(以下、実行委員会からの実績報告より抜粋)</p> <p>令和元年度 高島町子どもの未来応援事業「食と職」</p> <p>第1回「ひとつの鍋で簡単！自分で作るお子様ランチ」協力:高島町赤十字奉仕団 日時 令和元年12月21日(日) 9時30分～12時 場所 熱中小学校(旧時沢小学校) 内容 アイラップを使って子どもでも作れる簡単お子様ランチづくり 災害時にも活用できる料理術と、包丁の扱いについて学ぶ (メニュー:ピラフ、唐揚げ風、野菜スープ、蒸しパン、ウサギのリンゴ)</p> <p>第2回「なりたい自分を見つけよう！プロに教わる職業体験」 日時 令和2年1月25日(土) 8時～12時30分 場所 屋代地区公民館(大字竹森55) 内容 高島町内で活躍する企業や自衛隊などのプロから教わる職業体験 魚屋・大工・車屋・花屋・ケーキ屋・自衛隊の6つの選択肢から希望を取り、 時間を区切って3か所の職業体験を行ってもらう</p>	
6. 写真		
7. 効果	<p>第1回 参加児童 14名 (参加児童より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめて自分だけで作って、難しかったけど怪我せずできて楽しかった。 ・他の学校の人と交流し、たすけあいながら楽しく調理できてよかった。 ・みんなから「おいしい」と言われて嬉しかった。 <p>第2回 参加児童 44名 (参加児童より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな仕事が学べてすごく楽しかった ・講師の先生方のようなお仕事をしてみたい ・どの体験も最初は難しそうだなと思ったけど楽しかったので来年も参加したい 	
8. 課題	<p>第1回 量が多かったため食べるのに時間がかかり、解散が遅くなってしまった。 靴を脱いだり履いたりする場面が多く、子供たちが大変そうだった。</p> <p>第2回 企業により時間が前後することがあった。打ち合わせ不足だったかもしれない。 今年度は積雪が少なかったためこの時期でも開催できたが、来年以降は時期が早い方がよい。</p>	
9. 今後の取組の方向	事業を実施するにあたり、町商工会青年部の方が様子を見に来てくれたりと、関心をもっていただく機会になったので、今後毎年開催を目標として繋げられる仕組みをつくっていただき、そこを応援するような形で継続していきたい。	


令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	福祉こども課	
2. 事業名	赤十字フェスタ	
3. 計画の該当施策	基本計画	6. 地域で誰もが安心して暮らせる快適な環境づくり
	施策	(1) 安心して暮らせる生活環境の整備促進
	施策の方向	②地域ぐるみで防災・防犯力を高める
4. 事業目的	町民が親しみやすいイベントを通して、日本赤十字社の理念や活動について周知し、関心を持ってもらう機会とするため。とくに町民と距離の近い高島町奉仕団が主催し、活動を見ていただくことで、会費の協力を推進するため。	
5. 事業内容・実績	<p>◎2019 赤十字フェスタ in たかはた</p> <p>主 催 高島町赤十字奉仕団(共催:日本赤十字社山形県支部 高島町役場)</p> <p>日 時 令和元年9月8日(日) 10:00~14:00</p> <p>場 所 高島町糠野目生涯学習館駐車場(福沢南9-2)</p> <p>入場料 無料</p> <p>内 容 ①炊き出し(芋煮、アイラップ米、ホタテ箸) ②屋台(わたあめ、ポップコーン) ③はたらくるまの展示(救急車・通信指令車) ④キッズユニフォームの着用(子供用救護服・看護服) ⑤赤十字活動紹介パネル展示 ⑥防災かるた ⑦献血の模擬体験 ⑧マスコットキャラクターによる会場のにぎやかし</p> <p>親しみやすい内容にすることで、世代を超えて日本赤十字の活動についてPRする機会とした。当日は炊き出しの500食は早々に配布しおわり、アイラップを使った非常食づくり体験も含めて450名程度に参加していただいたほか、ユニフォームの試着約30名、防災かるた約20名、献血の模擬体験約30名と、多くの方に赤十字活動に関心をもって体験していただいたほか、募金コーナーには12,393円の募金が集まった。</p>	
6. 写真		
7. 効果	<p>【反省会より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暑い中だったが大成功でよかった。・赤十字や奉仕団の活動をPRする良い機会となった。 ・奉仕団の新メンバーの学習の機会にもなった。 ・他市町村の奉仕団にも手伝いに来てもらったため、交流できてよかった。 ・普段関わりのない若い親世代にもアイラップ米の体験をしてもらえてよかった。 	
8. 課題	<p>【反省会より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食スペースが日陰や屋内にあればよかった。 ・入口に大きめの看板を設置してよりわかりやすくすべきだった。 ・BGMがなく寂しかったので音楽を流すとよかった。 ・炊き出しの器が大きすぎて早々に配り終えてしまった。 ⇒その後来た人たちに食べてもらうことができなかった。 	
9. 今後の取組の方向	日本赤十字社の活動を周知するのはもちろんのこと、町民の一番近くで活躍する町奉仕団の活動のPRする場として効果があるため、奉仕団主催で今後も継続してフェスタを開催していきたい。飲食を伴うイベントのため、今後は新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じた上での開催としたい。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	福祉こども課	
2. 事 業 名	自殺対策予防事業:児童・生徒のSOSの出し方に関する研修	
3. 計画の該当施策	基本計画	3. いつまでも健やかで心豊かに生活できる環境づくり
	施策	(1)心の健康づくり推進
	施策の方向	②心の健康を保つための支援
4. 事業目的	児童生徒が命の大切さ実感できる教育だけでなく、困難に直面した時、誰にどうやって助けを求めればよいかの具体的かつ実践的な方法を学ぶと同時に、つらい時や苦しい知己には助けを求めてよいといくことを学ぶ教育(SOSの出し方教育)を行うことにより、直面する問題に対処する力やライフスキルを身につける。	
5. 事業内容・実績	<p>◆教職員対象の研修会(町内外)</p> <p>なぜ今SOS出し方教育が必要なのか、福島県内の児童生徒を対象として「いのちの教育」の実践者から、子どものメンタルヘルスの問題や自殺リスクを下げるための支援を学ぶ。</p> <p>演題「子どものメンタルヘルス支援 講師:福島大学特任教授 佐藤則之 (臨床心理士) 受講者 22名</p>	
6. 写真		
7. 効果	「いのちの教育」の実践者から、子どものメンタルヘルスの問題や自殺リスクを下げるための支援を具体的に学ぶことができ、目的達成につながった。	
8. 課題	令和2年度以降、児童生徒に向け事業を実施していく計画としている。中学生を対象に実施する予定であるが、時期、対象学年等詳細について学校していくことが必要。また、実施後の評価をきちんとする必要がある。	
9. 今後の取組の方向	自殺対策計画の事業として年次計画にて実施予定。	


令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	福祉こども課	
2. 事 業 名	サード(学びと交流の場)	
3. 計画の該当施策	基本計画	4. 未来を築く子どもが健やかに育つための環境づくり
	施策	(1)地域ぐるみの子育ての推進
	施策の方向	③さまざまな課題を抱える家庭の支援
4. 事業目的	経済面や家庭環境から支援を要する子どもたちに対して、安定した環境のもと継続的な学習ができる場と、基本的な生活習慣の習得機会をつくることにより、子どもたちの生きる力の獲得支援をめざす。	
5. 事業内容・実績	1)事業内容:学習支援、体験(調理実習、座禅、書初め等) 2)日時:毎週日曜日 2時間程度 3)会場:民家(4月～2月)、生涯学習館(12月～2月) 4)対象者:小2年～中3年の児童生徒31人。延参加数493人 5)支援員:事業内容に理解と熱意を有し、継続して支援ができる地域のボランティア45人。延活動数330人。 6)1回あたりの参加数:児童8.5人、支援員5.7人 7)児童ひとりあたり支援員数:1.5人	
6. 写真		
7. 効果	1)子ども ・2時間を落ち着いて参加できるようになり、親に話さない本音を支援員に話すなど、他者との良い関わりの機会になっている。 ・日曜日の生活リズム形成に役立っている。 2)親 ・支援員に子育てや生活の相談をするなど、親の情報収集や相談の場にもなっている。 3)運営面 ・参加児童生徒の親や学校から、成績向上の報告が複数きかれている。 ・年代や経験の異なる様々な支援員の関わりは、多様な刺激を親子に与え、視野を広げる場になっている。 ・年度途中に2か所目を増設したことで、交通手段がなかった児童も参加できるようになった。 ・寄付をいただくなど、地域からも活動を応援いただけるようになった。	
8. 課題	・事業について知らない対象家庭が多い。 ・送迎できない家庭の子どもは参加が難しい。 ・対象家庭や児童生徒の困りごとは多様であり、地域ぐるみの多方面からの支援体制構築が望ましい。	
9. 今後の取組の方向	・学習支援を必要とする児童生徒に事業の情報が届くよう広報の充実を図る。 ・食を通じた支援団体とのタイアップや、企業との連携等による支援の充実拡大。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	福祉こども課	
2. 事業 名	放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)	
3. 計画の該当施策	基本計画	4. 未来を築く子どもが健やかに育つための環境づくり
	施策	(1)地域ぐるみの子育ての推進
	施策の方向	①地域で子どもを見守り育てるしくみづくり
4. 事業目的	核家族の増加及び女性就業率の上昇による夫婦共働き世帯家庭の増加、またはひとり親家庭の増加といった社会構造の変化に伴い、安心して働き、仕事と子育てを両立できる環境を望む保護者が増加しています。そのような中、放課後等の児童の安全な居場所として、保護者の仕事と子育ての両立支援として、小学校区(二井宿小学校区を除く。)に放課後児童クラブを設置するものです。	
5. 事業内容・実績	<p>留守家庭の児童に対する放課後の生活の場の確保を行った。 ※町内で337人分受入れ確保</p> <p>高畠小学校区・・・ちびっこクラブ、あおたけ</p> <p>二井宿小学校区・・・人数が少ないため、町で送迎し高畠小学校区の放課後児童クラブを利用</p> <p>屋代小学校区・・・クレヨンクラブ</p> <p>亀岡小学校区・・・あおぞらクラブ</p> <p>和田小学校区・・・げんきクラブ</p> <p>糠野目小学校区・・・みんなのクラブ、遊学舎子どもの村</p> <p>令和元年度にみんなのクラブを改築(12月26日に開所式)・・・10名の定員増</p>	
6. 写真		
7. 効果	留守家庭児童に対して安全で安心な生活の場を確保できた。待機児童を発生させることもなく保育を必要とされる児童の受入れを行うことができた。	
8. 課題	保護者の共働きにより、放課後児童クラブの利用者は、年々増加しています。これに対して受入れスペースの問題や運営体制の脆弱化等、改善が求められます。さらに施設が老朽化しており、狭くなってきているところもあることから、それらの整備が課題です。また、他業種に比較して賃金が低いとされているため支援員の確保が難しくなっています。	
9. 今後の取組の方向	現在、老朽化や手狭になっている施設については、小学校校舎の有効活用、放課後子ども教室との一体的運営も検討していく必要があります。また、放課後児童クラブを運営する団体に対しての充実を図るとともに、支援員の処遇を改善し、働きやすい職場環境を目指すための組織形態の見直しを図っていく。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	健康長寿課	
2. 事業 名	乳幼児ふれあい体験授業	
3. 計画の該当施策	基本計画	4. 未来を築く子どもが健やかに育つための環境づくり
	施策	(2) やさしい心を育む環境の推進
	施策の方向	③家庭・学校・地域における福祉教育の推進
4. 事業目的	乳幼児やその保護者との関わりを通して、乳幼児への愛着を育み、あたたかい心といのちの尊さや人への思いやりを実感してもらい、将来、自分が親になることを具体的に考える機会を提供する。	
5. 事業内容・実績	<p>【事業内容】</p> <p>○高島高校「子どもの発達と保育選択コース」27名に対して以下の内容を実施</p> <p>1. 講話 妊娠・出産の経過、乳幼児の発育発達について 人形を使った抱っこ体験</p> <p>2. 乳幼児と保護者、生徒とのふれあい交流</p> <p>【実績】</p> <p>講話1回、ふれあい体験1回実施 その他特別授業1回実施</p>	
6. 写真		
7. 効果	アンケート結果から、いのちの大切さや親の思い、子育ての喜びを実感することができていたようだ。また生徒自身の自己肯定感を育むことにもつながっていた。	
8. 課題	継続して実施していくことや実践校を増やしていくときに、学校の受け入れや日程調整など、学校との調整が難しい。また、乳幼児を参加させることになるため、衛生面・安全面での配慮が不可欠である。	
9. 今後の取組の方向	町内のすべて小中学校での実施。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課名	健康長寿課	
2. 事業名	子育て世代包括支援センターの設置	
3. 計画の該当施策	基本計画	4. 未来を築く子どもが健やかに育つための環境づくり
	施策	(1) 地域ぐるみの子育ての推進
	施策の方向	① 地域で子どもを見守り育てるしくみづくり
4. 事業目的	子どもを安心して産み育てることができるよう、母子保健コーディネーターが妊娠期から子育て期まで切れ目のない総合的な相談支援体制を充実させ、子育て家庭が抱える問題の把握と支援を行う。	
5. 事業内容・実績	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦、乳幼児等の実情把握 ・妊娠、出産、子育てに関する各種の相談に応じ必要な情報提供、助言、保健指導を行う ・支援プランの作成 など <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦相談延人数100人 ・産婦、育児相談延人数365人 	
6. 写真		
7. 効果	平成28年4月に開設し、3年目に実施したアンケート調査の結果では子育て世代包括支援センターについて約7割の方が知っているとの回答だった(回収率:約37%)。また、回答者の7割が産前産後に、助産師や保健師から十分な支援が受けられたと回答している。	
8. 課題	助産師等の専門職の確保	
9. 今後の取組の方向	ワンストップ拠点としてさらに定着するよう関係部署・関係機関と連携を図りながら、機能の充実・強化を図っていく。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課名	健康長寿課	
2. 事業名	地域ケア会議推進事業	
3. 計画の該当施策	基本計画	5. 必要な支援を包括的につなぎ、つなげる体制の充実
	施策	(2) 地域全体で支え合う体制の推進
	施策の方向	③地域包括ケア体制の推進
4. 事業目的	個別ケースの支援を検討する地域ケア個別会議において、専門職や地域包括支援センター、保険者、地域住民等の意見より自立支援、重度化防止等の効果的な支援につなげ、住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられるよう地域全体で支援できることを目的としている。また、個別の支援の検討を重ね、共通の地域課題について地域づくりや政策形成につなげる地域ケア推進会議で地域の関係機関と検討する。	
5. 事業内容・実績	<p>【事業内容】</p> <p>○地域ケア個別会議</p> <p>1) 自立支援型 1回3事例検討 介護支援専門員が担当する要支援認定者等の支援について保健医療の専門職から助言を受け、高齢者の自立支援、重度化防止に向けた支援を検討する</p> <p>2) 地域支援型 支援が困難な事例や地域の方の援助が必要な事例などについて関係者で会議を活用し検討を行い、支援目標や役割分担の共有を図る。</p> <p>○地域ケア推進会議</p> <p>医療、介護、地域の委員が、個別会議で共通な地域課題について検討し、社会資源の開発や政策形成につなげる。</p> <p>【実績】</p> <p>○地域ケア個別会議 1) 自立支援型 年間17回 51事例 2) 地域支援型 年間2回 2事例</p> <p>○地域ケア推進会議 年2回</p>	
6. 写真		
7. 効果	地域ケア個別会議の事例検討の積み重ねより、支援する介護支援専門員の資質向上につながり、自立支援及び重度化防止に向けた支援につながっているケースがある。また、共通した課題のなかで、高齢者の運動機能低下や低栄養があり、介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの創出につなげた。	
8. 課題	地域ケア会議を実施し、医療、介護、地域のそれぞれの立場からの支援について検討しているが、安心して在宅で生活が続けられるよう、町民のニーズの把握、制度のなどしくみづくりや連携の強化が必要。	
9. 今後の取組の方向	地域包括ケアシステムの推進にむけた地域づくりにつながっていくため、継続して事業を実施	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課名	健康長寿課	
2. 事業名	高齢者虐待防止研修会	
3. 計画の該当施策	基本計画	7. 一人ひとり誰もが尊重され大切にされる環境づくり
	施策	(2) 虐待を地域で防ぐネットワークの構築
	施策の方向	①虐待を未然に防ぐ人権擁護活動の展開
4. 事業目的	高齢者虐待に関わる関係機関、関係者を対象に、高齢者虐待防止の正しい理解と早期発見早期対応の重要性と関係機関の連携の必要性について研修を行う。	
5. 事業内容・実績	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日時 令和2年2月13日(木) 14:00～15:30 ・場所 健康管理施設げんき館 多目的研修室 ・内容 講演「高齢者虐待に対する考え方と対応について」 講師 あべ社会福祉士事務所 所長 安部 久 氏 (山形県社会福祉士会 理事) <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修参加者 92名 民生委員・高畠町老人相談員・町内介護サービス事業所・町内介護施設・医療機関 	
6. 写真		
7. 効果	研修会参加者のアンケート結果より、「理解が深まった」「1回だけでなく、継続して研修会を開催してほしい」などの研修開催の評価であったり、「早期対応のための通報が重要とわかった」などの研修目的に対する評価があり、研修実施目的に沿った評価となった。	
8. 課題	高齢者虐待防止のための町民への普及と関係機関のネットワークが今後も必要のため、継続した研修会や普及啓発を行う必要がある。	
9. 今後の取組の方向	高齢者虐待防止連携協議会を定例で実施し、現状を把握しながら課題について検討し、必要な普及啓発活動を継続する。 (研修会の開催、広報等の普及啓発等)	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課名	健康長寿課	
2. 事業名	一般介護予防事業 高齢者サロンの設置	
3. 計画の該当施策	基本計画	2. 地域支え合いの充実
	施策	(3) 地域住民の拠点づくり
	施策の方向	① 地域住民が集う居場所づくり
4. 事業目的	日中何もすることが無く、家にこもりがちになる高齢者が多い中、地域で気軽に交流できるスペースの充実を図る必要がある。高齢者サロンは、集落ごとに立ち上げるため、同じ集落に住む集まりで気軽に交流できる場の提供となり、生きがいづくりや社会参加につなげて行く。	
5. 事業内容・実績	<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未設置の集落に声がけをし、設置に向けて協議する。令和元年度新規設置数 11カ所 ・高齢者サロンマップを作成し、各サロンの概要を乗せて町民用のガイドブックに活用。また、民生委員や老人相談員に配布し、未参加の方の紹介に活用している。 ・各サロン、お茶飲みや軽体操等を実施し楽しんでいる。 <p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2.3.31現在のサロン数 66カ所 	
6. 写真		
7. 効果	日中何もすることが無く、家にこもりがちになる高齢者が多い中、高齢者サロンを利用することにより、生きがいづくりや社会参加を促進していく。また、定期的に参加することにより、単身や高齢者世帯であれば安否確認につながる。	
8. 課題	数あるサロンの中には、役員の世代交代が上手くいかないところや新規会員の募集に苦労しているところが見受けられる。新規開拓はもとより、既存サロンの運営においても支援していきたい。	
9. 今後の取組の方向	目標を上回る設置となり順調に数を伸ばしているが、未設置の集落に声掛けをして更なる設置に向けて取り組んでいく。また、作るだけでなく継続していくことが重要なので、既存のサロンの運営についても相談に乗り継続に向けて支援していく。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課名	健康長寿課	
2. 事業名	総合相談事業	
3. 計画の該当施策	基本計画	1. 人と人がふれあう福祉コミュニティづくりの推進
	施策	(3) 地域の見守り支え合うしくみづくり
	施策の方向	① 困りごとを把握するしくみづくり
4. 事業目的	老人単独世帯等の訪問活動を行い、老人福祉の向上と老人の社会参加を助長するため老人福祉相談員を設置し、悩みごとの相談、健康管理に関する事など日常生活に関する相談を把握、助言する。	
5. 事業内容・実績	<p>【事業内容】 定例会および研修会を年12回開催し、町関係部署、老人福祉相談員同士の情報交換・共有を行っている。</p> <p>【実績】 R1年度 訪問件数3,055件</p>	
6. 写真	<div style="background-color: #f8d7da; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">老人福祉相談員を紹介します</div> <p style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">▶ 問合せ先/町健康長寿課高齢者支援係 ☎ (52) 4 4 7 8</p> <p style="font-size: small; margin-bottom: 10px;">老人福祉相談員は、高齢の一人暮らしの方や夫婦世帯を中心に訪問しています。日常生活に関する悩みごとや心配ごとなどお気軽にご相談ください。相談員は町健康長寿課、福祉こども課、民生・児童委員と連携し定期的に情報交換などを行いながら、高齢者の方が安心して暮らせるようお手伝いをしています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  【高島地区担当】 山口昌平さん </div> <div style="text-align: center;">  【二井宿地区、高島地区の一部担当】 中川広幸さん </div> <div style="text-align: center;">  【屋代地区担当】 高橋忠昭さん </div> <div style="text-align: center;">  【亀岡地区、和田地区の一部担当】 古山安雄さん </div> <div style="text-align: center;">  【和田地区担当】 星 憲三さん </div> <div style="text-align: center;">  【糠野目地区担当】 後藤敏郎さん </div> </div>	
7. 効果	高齢者世帯の安否確認、困りごと相談を聞き助言することで、高齢者が安心して暮らしなれた地域で過ごすことができる。	
8. 課題	高齢化率が高くなるに伴い、高齢者世帯が増え、相談内容も多岐にわたる為、訪問対象世帯に対し、老人福祉相談員が訪問できる件数が不足してきている。	
9. 今後の取組の方向	老人福祉相談員の設置は継続し、訪問対象世帯も優先順位を付け訪問できるよう支援する。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課名	農林振興課	
2. 事業名	令和元年度食育・地産地消推進事業	
3. 計画の該当施策	基本計画	3. いつまでも健やかで心豊かに生活できる環境づくり
	施策	(2) 健康を支える地域づくり
	施策の方向	①各年代に応じた健康づくりの推進
4. 事業目的	子育て世代の伝統食に対する優先度向上を図るため、地域の伝統食材である「干し物」を活用。伝統的な調理方法だけでなく、洋風アレンジの方法を紹介して関心を促し、伝統的な料理方法を学ぶ意欲を高めるきっかけをつくる。	
5. 事業内容・実績	<p>テーマを「子育て世代×伝統食材」と設定し、子育て世代の伝統食に対する優先度向上を図るため、地域の伝統食材である「干し物」を活用したミニ講座を開講。講座は屋内遊戯場もつくる内でおこない、対象者が参加しやすい環境づくりに配慮した。</p> <p>【講座内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 干し物を活用したレシピの紹介(3種類) <ul style="list-style-type: none"> ・干しなすのトマトグラタン ・打ち豆入りパンケーキ ・くきたち干しまたはひょう干しの煮物 2. 調理デモンストレーション 干しなすのトマトグラタンを焼く前の状態までデモンストレーションする。 3. 紹介した干し物料理の試食 4. 干し物が購入できる店舗(直売所)の紹介 	
6. 写真		
7. 効果	<p>●参加者アンケート結果から「干し物食材に対する印象が良くなった」との回答が多く得られたことから、伝統食材への理解と活用促進が図られたことが確認できるとともに、「伝統料理の調理方法を学びたい」との声も聴かれ、子育て世代の意識や関心が食文化継承にも向けられている状況を調査することができた。</p> <p>●複数人の講師が連携・協力して運営にあたったことで、講師間の交流ができ、今後の推進に向けた土台づくりが図られた。また、それぞれが所属団体で本事業について報告いただくことにより、波及効果につながっている。</p>	
8. 課題	継続実施に向け、魅力ある講座内容の企画として参加者アンケートに記載された要望の採用や、子育て世代で取り上げられるタイムリーな話題を取り上げていく。	
9. 今後の取組の方向	<p>以前も推進事業等に講師として携わってくださった方からは「講座等を設定して参加者を募集してもなかなか申込に至らないことが多く、また、対象として設定する子育て世代等の参加はなお少ない状況を経験してきたが、もつくるであると、対象者が集まっているところで開催できるため、効果的であると感じた」との意見をいただいている。</p> <p>また、参加者アンケートの結果からも継続実施の声が聴かれていることから、次年度についても、今年度と同様の形式で推進事業開催を進めていきたい。</p> <p>さらに、参加者アンケートに記載された要望を地域の食育推進団体等につなぐ仕組みをつくり、各団体主催の参加者を増やすなど、連携強化に取り組む。</p>	


令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	総務課	
2. 事業名	高島町総合防災訓練	
3. 計画の該当施策	基本計画	6. 地域で誰もが安心して暮らせる快適な環境づくり
	施策	(1)安心して暮らせる生活環境の整備推進
	施策の方向	②地域ぐるみで防災・防犯力を高める
4. 事業目的	町の地域防災計画に基づき、防災関係機関及び住民の参加協力のもと、災害時の応急対策について総合的な訓練を実施し、災害時における関係機関相互の協力体制を確立するとともに、住民の防災に対する理解と防災意識の高揚を図ることを目的とした。	
5. 事業内容・実績	<p>置賜では、一週間ほど断続的に雨が降り、最上川の水位高い状態が続くとともに、9月8日早朝から降り始めた雨が次第に強まり、山形気象台では午前8時に置賜地方に大雨と洪水警報を発令。降り始めからの雨量は100ミリメートルを超える恐れがあり、町内各地では河川の氾濫の危険もある。との設定で、訓練を開始した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時: 令和元年9月8日(日) 午前9時から ・場所: 糠野目生涯学習館及びその周辺 ・内容: ①災害対策本部設置訓練 ②情報伝達訓練 ③情報収集訓練 ④避難所開設訓練 ⑤住民避難訓練 ⑥内水はん濫防禦訓練 ⑦備蓄物資運搬訓練 ⑧給食・給水訓練 ⑨医療救護訓練 ⑩応急工事訓練 ・参加人数: 600名 ・その他: 「赤十字フェスタinたかはた」、国交省水害パネルの展示、防災備品・グッズの展示など 	
6. 写真	 <p style="text-align: center;">▲水害の被害状況などをパネルで掲示</p>	 <p style="text-align: center;">▲水害に備え、土のう積みの訓練</p>
7. 効果	<p>消防団員や自主防災組織のメンバーなど、町民の参加協力を得て実施することで、自分の目で確認し、体験することができ、知識だけでなく自分で実感できる機会として効果があった。</p> <p>また、災害時に連携が必要な県をはじめとする行政機関や団体、そして企業等とも訓練を通しての意思疎通や共通体験ができたことも効果があるものと考えている。</p>	
8. 課題	<p>絶えず変化とレベルアップを目指し、訓練のための訓練にならないよう心構える必要がある。また、訓練の内容に大きな変化がないときであっても、次の行動計画やさらなる被害に備えての準備と訓練が必要と思う。</p>	
9. 今後の取組の方向	<p>新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながらも、さまざまな災害に対応できるよう、日頃の訓練や防災意識の普及に努め、今後も町総合防災訓練に取り組む必要がある。</p>	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	総務課	
2. 事業名	高島町地域防災セミナー	
3. 計画の該当施策	基本計画	6. 地域で誰もが安心して暮らせる快適な環境づくり
	施策	(1)安心して暮らせる生活環境の整備推進
	施策の方向	③自主防災組織の機能と活動の強化 ④災害時の要援護者支援体制の強化
4. 事業目的	<p>町民の防災意識をさらに高めるとともに、地域防災力のさらなる向上を目指す。さらに、自主防災組織相互の連絡体制を整備し、防災に関する研修・訓練の実施や情報交換・共有を行うことで災害に強い安全安心なまちづくりに寄与することを目的として実施した。</p>	
5. 事業内容・実績	<p>町内112集落(複数の集落で、で1つの組織あり)で組織している「自主防災組織」が一同に集い、高島町自主防災組織連絡協議会の総会を開催し、事業の報告・役員改選・事業計画等を決議した。その後、情報提供と活動の事例紹介をそれぞれの担当から報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時: 令和元年6月2日(日) 午前10時から ・場所: 中央公民館 大会議室 ・内容: ①避難行動要支援者名簿について ②防災情報への警戒レベル設定について ③地域支え合いマップの作成・更新について ④高島赤十字奉仕団の活動紹介 ⑤防災・防犯の取り組みについて ・参加人数: 129名 ・その他: 特になし 	
6. 写真		
7. 効果	<p>机上での事例紹介や報告であるが、より具体的な説明等であることから参加者にとって有意義なものとなった。 自主防災組織について一人ひとりが、組織の役割や行動を理解するためにも、町内112集落の「自主防災組織」が一同に集うことが必要。参加者の意識や今後の活躍にも役立っているものと思う。</p>	
8. 課題	<p>自主防災組織の活動をより理解し、参加者がさらに輪を広げ、集落のみなさんと共通理解に立つためには、地区や集落ごとの話し合いや訓練が、防災体制づくりと活動の活性化を図る基礎になるものと思う。 そのためには年に一度の町全体のセミナー開催だけでなく、地区ごとの課題を把握するとともに、地区ごとに研修や訓練を行う必要があると思う。(すでに集落で研修訓練を実践している例あり)</p>	
9. 今後の取組の方向	<p>地区独自の防災にかかわる訓練実施につなげるためにも、地区ごとの自主防災組織連絡協議会を立ち上げることが必要と考える。町民の命と財産を守るための基礎となる地域力と防災力やアップするためにも、重要な組織づくりであり、結成を実現するよう早急に取り組みたい。</p>	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	社会教育課	
2. 事業名	自治公民館活動研究集会	
3. 計画の該当施策	基本計画	1. 人と人がふれあう福祉コミュニティづくりの推進
	施策	(2) 地域住民自らが進めるコミュニティ活動の活性化と支援
	施策の方向	① 地域住民自ら進める地区づくり活動の推進
4. 事業目的	個性豊かで活力に満ちた地域社会をつくるため、町内外において独自の地域おこし事業を実施している事例を聞き、これからの自治公民館として地域づくりの活動を模索するとともに、公民館相互の情報交換及び連携を深める。	
5. 事業内容・実績	<p>主催_高島町自治公民館連絡協議会連合会 日時_令和元年7月7日(日) 午後1:30~3:30 会場_高島町中央公民館大会議室 内容_講演会 (演題:自治公民館と地区公民館は地域づくりの両輪) 講師_きらりよしまネットワーク事務局長 高橋由和氏 参加者_自治公民館の役員等 92人</p>	
6. 写真		
7. 効果	住民同士で話し合う機会が設けられ、自治会単位で生活課題や地域課題を把握し、行動することの重要性が認識できた。	
8. 課題	参加者の多くが一年任期の役員であることから、講演会のテーマ設定を毎年度繰り返された内容としている。自由活発な話し合いで意見交換が図られる方法を取り入れ、参加者のすそ野を広げることが課題である。	
9. 今後の取組の方向	「自治公民館活動研究集会」の取り組みを継続し、自治公民館相互の情報交換と連携を深めた活動を展開・期待する。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	社会教育課	
2. 事業 名	高島町地区づくり計画	
3. 計画の該当施策	基本計画	2. 地域支え合いの充実
	施策	(3) 地域住民の拠点づくり
	施策の方向	① 地域住民が集う居場所づくり
4. 事業目的	地域住民が主体となって、自分たちの住む地域の自然、産業、生活、歴史文化などを学び、自分たちで考えた暮らしやすい地域の将来像を「地区づくり計画(第4期)」として作成し、地域が目指す5年後の地域づくりを実践する。	
5. 事業内容・実績	<p>高島__地域探索ウォーキング、クリーン作戦、キャンドルナイト、プラザ祭り、地区づくり講座 など</p> <p>二井宿__わくわくプロジェクト活動支援、健康体操教室、ノルディックウォーク講座、敬老事業 など</p> <p>屋代__防災研修会、やしる冬まつり、健康づくり講座、大人の社会科見学、伝統料理教室 など</p> <p>亀岡__もんじゅ山環境整備、ふれあい冬まつり、防犯マラソンパレード、念仏踊り伝承事業 など</p> <p>和田__ゆきの里まつり、世代交流冬まつり、男の料理教室、地域環境整備 など</p> <p>学習館__パークゴルフ交流事業、カルチャー教室体験会、世代交流雪あそび など</p>	
6. 写真		
7. 効果	第4期地区づくり計画の具現化を図るため、地区公民館(地区事業)運営委員会が主体となり、各種団体との連携により、住民の学習活動、交流事業や環境整備などが計画的に実施された。また、事業を通し、これからの地域づくりを担う人材の発掘や育成を進めることができた。	
8. 課題	人口減少の進行、貧困問題の深刻、地域社会の希薄化など子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化している。未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、家庭地教育を重視して、地域における子育て支援体制の充実に努めることが課題であると認識している。	
9. 今後の取組の方向	地区公民館(地区事業)運営委員会が主体となり、第5期地区づくり計画(令和4年から令和8年)の策定と住民主体の事業を支援していく。	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	社会教育課	
2. 事業名	放課後子どもプラン推進事業(放課後子ども教室)	
3. 計画の該当施策	基本計画	4. 未来を築く子どもが健やかに育つための環境づくり
	施策	(1) 地域ぐるみの子育ての推進
	施策の方向	②子ども・子育てを支える活動の拡大
4. 事業目的	放課後や学校外活動における子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを推進し、地域の教育力の向上を図る。	
5. 事業内容・実績	<p>すべての子どもを対象(小学1年から6年児童)に、地域の参画を得ながら学習活動や体験活動の場の確保。</p> <p>高島__かいほう塾。開催日数28日、延1,400人参加、陶芸教室、キャンドル作り、自由あそび など 二井宿__あそび塾。開催日数28日、延840人参加、笹巻づくり、干し柿づくり、絵画教室 など 屋代__自由楽校。開催日数27日、延2,700人参加、水辺生き物観察、座禅・写経体験 など 亀岡__かめともクラブ。開催日数14日、延420人参加、流しそうめん、リサイクル工作 など 和田__なごみんひろば。開催日数24日、延550人参加、地域探検、ティーボール、語り部 など 学習館__かっぱクラブ。開催日数24日、延1,560人参加、工作、おかし作り、演劇鑑賞、 など</p>	
6. 写真		
7. 効果	放課後において、地域、学校と家庭が連携・協働し、子どもの地域における多様な体験や学びの機会の充実が図られる。	
8. 課題	「新・放課後子ども総合プラン」の趣旨に基づき、放課後子ども教室と放課後児童クラブの連携した取り組みが求められている。放課後子ども教室と放課後児童クラブは、今後も需要の増大が予想されることから、受け入れの拡大と施設の充実(整備)が必要である。	
9. 今後の取組の方向	「新・放課後子ども総合プラン」の取り組みを推進し、活動を支える地域コーディネーター・協働活動サポーターや関係機関との協力体制を構築する。	


令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	教育総務課	
2. 事業名	幼小中連携推進事業	
3. 計画の該当施策	基本計画	4. 未来を築く子どもが健やかに育つための環境づくり
	施策	(1) 地域ぐるみの子育ての推進
	施策の方向	② 子ども・子育てを支える活動の拡大
4. 事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児施設と小学校、小学校と中学校の連携を推進し、交流を図りながら、円滑な接続ができるようにする。 ・各施設間、地域間、町内全体のつながりと円滑な接続をもとに、幼児施設から小学校、中学校の長い期間で子ども達の成長を見守り続け、一人ひとりに応じたきめ細かい指導を継続してできるようにする。 	
5. 事業内容・実績	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中連携コーディネーターの配置 ・幼児施設巡回訪問(臨床心理士の派遣を含む) ・小学校低学年への訪問(幼小中連携コーディネーター) ・中学校1年生の小学校教員による授業参観訪問と情報交換 ・1月に幼小中実践交流会(小学校区、中学校に分かれて子どもの情報交換) ・就学ガイドブックの作成(福祉こども課・健康長寿課との連携) ・引継ぎファイル「高畠町教育支援ファイル いきいきっ子」の作成 	
6. 写真		
7. 効果	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーターが幼児施設の巡回訪問を計画的に行うことにより、就学相談が早期にスムーズに進むようになった。また、校種間の連携や情報交換も必要に応じて行っている。 	
8. 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・就学ガイドブックをHPへの掲載、必要保護者への配布と共に、活用の効果についても検証を行っていく。 ・幼小、小中の接続のための情報共有はだいぶ進んだが、幼～中をみると切れ目があるため、引継ぎファイル「高畠町教育支援ファイル いきいきっ子」をしっかりと活用していく。 	
9. 今後の取組の方向	<p>引き続き幼小中連絡協議会において課題を抽出し、連携計画を作成・実践しながら、幼児施設、小学校、中学校各施設間の情報共有化を図り、課題を抱える児童・生徒への支援体制の充実を図っていく。</p>	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	公立高島病院	
2. 事業 名	糖尿病教室	
3. 計画の該当施策	基本計画	3. いつまでも健やかで心豊かに生活できる環境づくり
	施策	(2) 健康を支える地域づくり
	施策の方向	①各年代に応じた健康づくりの推進
4. 事業目的	糖尿病患者および地域住民の糖尿病予備軍に対して、糖尿病予防及び重症化予防についての情報提供や教育・支援を行う。	
5. 事業内容・実績	<p>当院の医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士が、年間を通して様々な内容での教室を開催し、糖尿病予防や重症化予防に努めた。</p> <p>【 開催回数: 15回 延べ参加人数174名 】</p> <p>① 5月24日 「あなたは、食べれなくなったらどうしますか？」 講師: 医師1名 参加人数: 21名</p> <p>② 6月12日 「今年は猛暑?! 熱中症予防」 講師: 看護師2名 参加人数: 9名</p> <p>③ 6月26日 「《料理教室》脳もカラダも若返るレシピ」 講師: 管理栄養士2名 参加人数: 13名</p> <p>④ 7月10日 「自宅で簡単にできるストレッチ～正しく楽しく歩こう!～」 講師: 理学療法士2名 参加人数: 18名</p> <p>⑤ 7月24日 「身体の状態と検査のお話～検査結果の見方について～」 講師: 臨床検査技師1名 参加人数: 7名</p> <p>⑥ 8月24日 「気を付けよう! 暑い時こそ、薬と水」 講師: 薬剤師1名 参加人数: 8名</p> <p>⑦ 9月 5日 「無病息災」 講師: 医師1名 参加人数: 21名</p> <p>⑧ 9月25日 「災害時の備えとシックデイについて」 講師: 看護師2名 参加人数: 3名</p> <p>⑨ 10月 9日 「やってみよう! ながら運動」 講師: 理学療法士2名 参加人数: 8名</p> <p>⑩ 10月23日 「今年もやります! 薬と食事とサプリメント」 講師: 薬剤師1名 参加人数: 9名</p> <p>⑪ 11月13日 「動脈硬化のいろいろなお話」 講師: 臨床検査技師1名 参加人数: 5名</p> <p>⑫ 11月27日 「自分の足をみてみませんか?」 講師: 看護師1名 参加人数: 11名</p> <p>⑬ 12月14日 「冬太り撃退! 体質改善のための食事法」 講師: 管理栄養士2名 参加人数: 8名</p> <p>⑭ 1月22日 「自宅でできる簡単体操～春に備えて～」 講師: 理学療法士3名 作業療法士1名 参加人数: 27名</p> <p>⑮ 2月26日 「認知症と糖尿病」 講師: 看護師2名 参加人数: 6名</p>	
6. 写真		
7. 効果	<p>【参加者アンケート調査の結果より(126件中、一部抜粋)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて参加しましたが、普段疑問に思う事を気軽に伺えてとても有意義でした。 ・脳にもおいしい、これからに活かしていきたいことだらけでした。肌にも良いことしていきたいです。 ・運動嫌いな私が少しやってみようかな! と思いました。 ・薬と食品の飲み合わせとその副作用が理解できたので参考になりました。 <p>毎回様々なテーマで開催しており、アンケートの内容からも参加者から高評価を得られている。</p>	
8. 課題	<p>広報たかはたや院内掲示板等で開催の周知を行っており、徐々に活動が浸透し参加人数が年々増加してきているが、現在は新型コロナウイルス感染症のため開催が見送られている。どのタイミングで再開できるかが課題。</p> <p>また、若い世代の方の参加者が少ないことも課題となっている。</p>	
9. 今後の取組の方向	<p>上記課題を解決するために、WEB開催など密を避ける手法も考慮しながら、今後も町民の健康づくりのため継続して活動を行っていきたい。</p>	

令和元年度 地域福祉計画・地域福祉活動計画重点事業評価シート

1. 課 名	社会福祉協議会	
2. 事業 名	地域支え合いマップ	
3. 計画の該当施策	基本計画	1. 人と人がふれあう福祉コミュニティづくりの推進
	施策	(3) 地域の見守り支え合うしくみづくり
	施策の方向	① 困りごとを把握するしくみづくり
4. 事業目的	集落単位での「地域支え合いマップづくり」の活動を通して、福祉について学ぶ機会を設け、地域住民自らが地域内の課題について話し合いを行い、地域内で見守りが必要な人や支援を必要とする人を把握し、災害発生時の安否確認のみならず、日頃の見守りや支え合い活動につなげられるようにする。	
5. 事業内容・実績	<p>中和田東部自治会 地域支え合いマップづくり（新規作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日時 令和元年5月19日（日） ・ 場所 中和田東部公民館 ・ 内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 学集会 社協の組織と事業紹介、地域支え合いマップの必要性と作り方の説明 ② 町歩き（2班） 危険個所の確認、避難場所の確認、防災設備の確認 ③ マップづくり 災害時の危険個所・避難場所、消火栓等の記入、見守りが必要な人・見守りができる人・見守りの範囲の記入 ④ 振り返り ⑤ その他 ・ 参加者 中和田東部自治会：区長、公民館長、隣組長、消防団等14人 高島町：職員2人 社協：見守りネットワーク推進員2人、職員2人 計20人 	
6. 写真		
7. 効果	<p>地域の中の危険な個所の把握や、災害時に要支援者がどのように避難するのかを検討し、それをマップの中に反映していく活動を通して、地域住民自らが地域の課題について考え、地域福祉活動を行うためのきっかけをつくることができた。</p> <p>また、マップづくりを通して、地域の中の要支援者や地域で心配な人に対して、地域の中で日頃から見守るための仕組みをつくる意識づけができるとともに、災害時等の対応に期待することができる。</p>	
8. 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ マップづくりをした後、それをどのように活用していくのかが自治会の方々にしっかり伝わらないと、ただマップを作成しただけで終わってしまう。 ・ マップの更新作業を定期的に行っていないと、最新の情報が反映されず、災害等の際に活用しきれない。 ・ 自治会の役員は年々代わっていくので、マップに関する扱い方等をしっかり引き継いでもらう必要がある。 ・ 自治会によりマップづくりへの理解に温度差があり、実績が思うように伸びない。 	
9. 今後の取組の方向	<p>町内でまだマップを作成していない自治会が多くあることから、各区長に事業内容やその必要性・有効性を周知徹底していき、マップを活用した活動事例等を紹介しながら、より多くの自治会でマップづくりに取り組んでもらえるように働きかけていく。</p>	